
向日葵

織田一菜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

向日葵

【ZPDF】

Z8041C

【作者名】

織田一菜

【あらすじ】

桜の続きの詩です。ぜひお読み下さい。

私の目の前に

再び現れたあなたは

もう昔の面影は

残つてはいませんでした

だけど

私の思いはまだ残つていて

あのころ

伝えることが出来なかつた

この思い

やつと伝えることが出来ました

あなたは私にとつて

向日葵のよくなひとつ

私にとつてあなたは

あこがれでした

私にとってあなたは

太陽でした

あなたにとっての私は

なんなのでしょうか？

私はあなたのことを

いつも見ています

それさえもあなたの

迷惑だというのなら

あなたにとっての私は

なんなのでしょうか？

彼の気持ちが

偽りでも

私は幸せなのでしょうか？

あなたがいつも見ている

変わることのない

向日葵畑

その景色を

私は少しでも

私は少しでも

あなたが一度と

変えたかつた

私の目の前から

消えてしまわないように

あなたは私にとって

向日葵のようないひと

私にとってあなたは

崇拜そのものでした

愛そのものでした

私にとってあなたは

あなたにとっての私は

なんなのでしょうか？

私はあなたのことを

いつも思っています

それさえあなたの

迷惑なうば

あなたにとつての私は

なんなのでしょうか？

彼の気持ちが

偽物でも

私は幸せなのでしょうか

現れたとき

あなたが再び

私は確かに幸せでした

でもその思いを

あなたの重荷になるのなら

私は不幸せなままでよかったです

あなたに会えたことが

心のアルバムに

しまえることが

できたのだから

もうあなたの

心のアルバムから

消えてしまった

一人で過ごした

かけがえのない日々

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8041c/>

向日葵

2010年10月9日06時13分発行